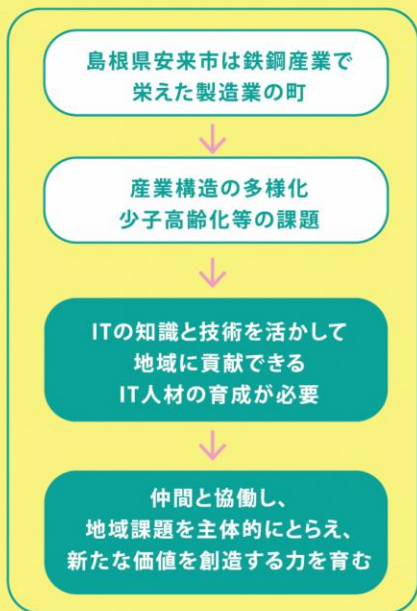
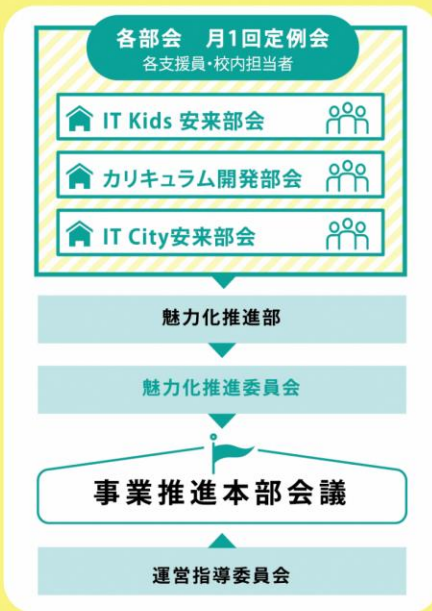


地域との協働を通じたデジタルイノベーション創出人材の育成

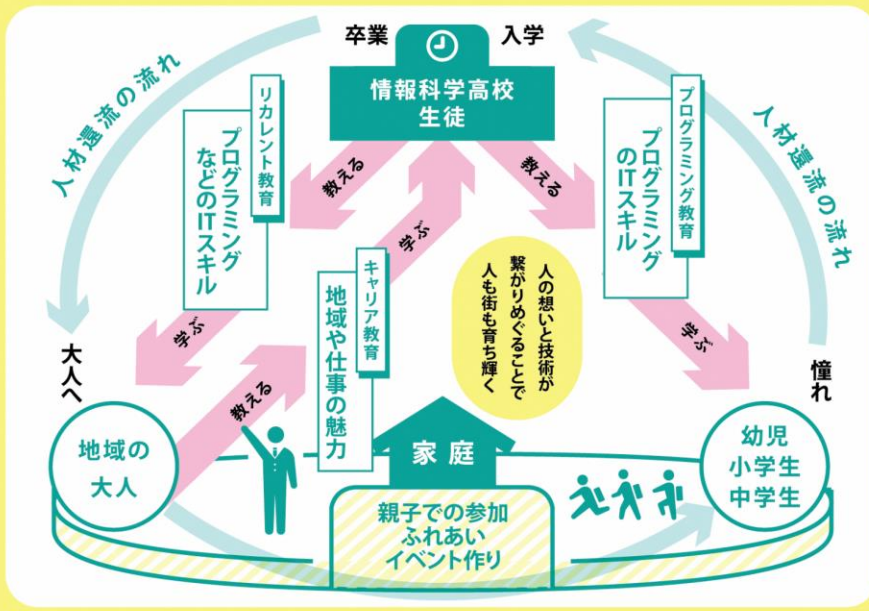
研究開発の背景



研究開発の実施体制



コンソーシアムが目指す人材還流



| 部会 | 令和3年度の目標 | 取り組み状況 | 成果と課題 |
|-------------|--|--|---|
| ITkids 安来部会 | 市内の小中学生に対する体験講座や小中学校教員に対するIT研修を実施。生徒が教える体験を通して主体性や協働性、自己有用感を高める。 | 小中学生対象の体験講座を計5回開催した他、ウェルカム講座2回、出張講座を3回、小中教員対象研修を1回実施した。また、安来二中校区の小中学生の交流会も本校で開催し、好評であった。 | 【成果】○体験講座では生徒が講座の講師として活躍。 ○全校の約1/3の生徒が指導スタッフを体験。自己有用感向上。 【課題】○2・3月はコロナの影響で中止となった。 ○担当する教員の負担軽減が課題。 |
| ITCity 安来部会 | コンソーシアムメンバーと連携した活動を増やし、市の活性化と情報科学高校の生徒育成を目的とした活動を産学官で活発に行う。 | 情報ITフェアや課題研究発表会はコロナのため、オンライン開催となったが、発表の講評をコンソーシアムメンバーにしてもらうことができた。イベント開催や、商品開発、システム開発など多数の取り組みができた。 | 【成果】○R3年度から企業や団体と連携協力するケースが増加。 ○商品開発3品、デザインの依頼5点、活動4回、システム開発2 【課題】○商工会議所・商工会との有機的な連携が未開発。 ○令和4年度に連携を活発にしたい。 |
| カリキュラム開発部会 | 学校設定科目「地域探究基礎」の円滑な実施と、令和4年度に開講する「地域探究応用」での全教科体制など、具体的な計画の完成、全体共有。 | カリキュラム開発等専門家の意見を取り入れながら、具体的な協議ができた。地域探究基礎ではコンソーシアムで構築した「人財バンク」から講師を招いた授業を開講し、地域の魅力と課題を教えてもらった。 | 【成果】○地域探究応用の体制検討、承認。少人数のゼミ形式で展開する。 ○地域探究基礎での人財バンク講話が生徒に好評。 【課題】○R4からの「地域探究応用」で、指導体制や評価の統一感が不安。 ○1単位での深い学びと、フィールドワークの実現。 |
| その他の活動 | しまね留学など生徒募集活動の組織体制化。DIP(ICT活用推進の委員会)活動の活発化、ICTサロン(教員の自主研修)の開催で、デジタルイノベーション創出する土台を作る。 | しまね留学は総務部、教務部と魅力化推進部の3分掌が連携して実施できた。DIP(ICT活用推進の委員会)も適宜集まって、iPadとスマホ規定の協議やGoogleフォーム活用を推奨した。ICTサロンも開催できた。 | 【成果】○新しいiPadとスマホルールを協議し施行。○ICTサロンの実施(2回) ○各種調査のGoogleフォーム化を推進。(紙からフォームへ3件) 【課題】○iPadスマホの規定遵守。 ○R4入学生の端末ChromeBookなど多様な端末の有機的な活用。 |